

# OB会報

第5号

湘南高校サッカー部OB会

## 年頭偶感

OB会長 天野武一 (第1回)

新年おめでとう。母校湘南サッカー部の現及びOB諸君の御多幸を心から祈り上げます。すでに読まれた仲間もありでしょうが、私は先日偶々、マグリーン著・忍足欣四郎訳「フットボールの社会史」という書物を見つけました。岩波新書です。まだ読み終えてはお

りませんが、旧時代のブリテン島の蹴球はその荒っぽさのゆえに、とうてい紳士のなすべきものではないとされていたが、一九世紀後半に及んでアソシエーション式(サッカー)競技やユニオン式(ラグビー)競技によって駆逐され、それぞれウエストミンスター校やチャーターハウス校、又はラグビー校で行われていた競技を組織化したところに、今日みられるような近代競技としての蹴球が成立した。という経過が説かれています。私どもの学生時代に、単に蹴球又はア式蹴球といっていたSOCCERの綴りは、一八九一年の文献によるとSOCCERなのだそうです。そこで私は、日本蹴球協会創立満五〇年記念出版の「日本サッカーのあゆみ」を開いてみたくなり、さらに進んで、母校湘南の往年の戦績を確認してみたところ、「湘南中学」の名が次の三つの全国大会に出ています。すなわち

- (1) 一九三九年(昭和十四)第一〇回明治神宮国民体育大会、湘南中は六対〇で高松商業を、五対二で京都の強豪聖峰中を連破した
- (2) 一九四〇年(昭和十五)第一一回明治神宮国民体育大会、湘南中は前年にひきつづき出場して不戦一勝ののち、一対〇で仙台一

決勝は一対〇で神戸一中の優勝。

中を破ったが、〇対三で又も明星商に敗れた。

- (3) 一九四六年(昭和二一)西宮で戦後最初の国民体育大会のサッカーが行われ、東日本代表湘南中が西日本代表神戸一中を一対〇で破り優勝。

というわけです。年頭にあたり、夢よ再びとばかりに、ついあの頃のことを回想してしましました。(注)前掲(1)と(2)にはわがOB会発行の「湘南サッカー・半世紀を経て」一五五頁の記事と一致しない部分があるので検討の要あり、念のため。

### サッカーと私

松村豊雄 (5回)

去る11月23日有名旧制中学校OBサッカー大会に湘南校チーム応援のため東京瓦斯深川グラウンドに出向き久しぶりに母校往年の名選手の手活躍振りを見出来たことと共に、旧高師附属中の大先輩である竹内さん(湘中サッカー部創立者後藤先生のことを良く知っています)、旧府立八中の村形さん、旧制広島一中の土井田さん(小生取引銀行支店長さんであった)等々にお会いする事が出来非常に懐しく思いました。と同時に母校のグラウンドで当時サッカーに熱中したことが憶い出されました。色々思いではありますが、特に社会人

として大阪勤務しておりました昭和十二年に我が母校が甲子園での全国大会に出場、先輩として応援が出来た時は、それ迄私達が県大会或は関東大会で苦労した甲斐があったとの嬉びと興奮は忘れ得ませんでした。終戦後遂に全国大会で優勝出来たことは御存知の通りです。

私がサッカーに憧れた理由は色々ありますが、第一にチームプレイであること。第二に広いグラウンドで伸々とプレイ出来ること。の二つであります。チームプレイは他に色々ありますが、ポジションの固定的な野球、或はバレーボール、狭く限定されたコートでプレイするバスケットボールとは異なり、広いプレーエリアで動的、流動的にプレイ出来ることの楽しさです。ラグビーも大体類似ですがスクラムに基づく頻発的な中断が残念です。

チームプレイの良さは多言を要しませんが組織の一員として、チームの中で育成された一つのバランス感覚が大切な要素であるからです。チームメイトの中にあつて独善的でなくお互のポジションを考慮しつつ助け合い苦楽を共にする精神の涵養が出来るからです。最近の日本の国際的環境の中でその行動が云々されることは、日本にはチームプレイスポーツが古来のものでなかったために不慣れな点が多々ある事に起因してのではないかと改めて考えさせられ、今後は此様なスポーツを通じて大いに発展したいものだと思います。最後に湘南サッカー部の今後の御奮闘、御発展と共にOB諸兄の益々の御健勝を祈って止みません。

# 旧制中学

## OBサッカー大会

小田島 三之助 (24回)

去る11月23日第4回大会が行われた。成績は残念ながら昨年に引き続いて上位に入れなかった。参加校は、今年は高師附属、府中五中、府立八中、湘南と神戸一中、広島連合である。選手資格は、旧制中学在席者となっている。各校共、戦前、戦後のかつての有名選手ばかり、丁度日本サッカーリーグが誕生するまでの日本のサッカーを背負って来た選手ばかりである。

随所で往年の名選手の好プレーが出て来たのは勿論だったが、試合後のパーティも大いに盛り上がり、それぞれの校歌で一日が終るのだが、昔話で皆当時の自分に戻り、当時の試合のこと、なつかしい話が尽きず、サッカーを名門校湘南でやっていて良かったと思う一日であった。

そこで名門とは何んだらうと考えてみた。名門＝名声の高い由緒のある家柄(名門の中学校)歴史が古く名の知られた学校……と辞書には書いてある。

「湘南は名門である」と思う。何故なら長い歴史を持つている。ここに集まった人々、は人柄のよい、仲間として一緒に過ごして来

て良かったと思う人達ばかりだ。又、実力のある学生が集まる学校と言われている。社会人としても多くのOBは現在それぞれの分夜に大活躍をされている人達ばかりである。

「サッカーの名門湘南」について考えてみた。サッカーが非常に高技で強かった。しかも「湘南のサッカー」であり、全国のどこから真似たサッカーでない。その上サッカーオンリーでなく文武両道の選手で歴史、かつながっている。練習にしても、死にも狂いとか蹴飛ばされてとか、大声でどなられて強制的に鍛えられたものではなかったと思う。自分で体力をつくり、自分で技術を身に付け、よく考えて、何をするか、どうするかと整理し、理論的にチーム作りをしている。長い間諸先輩より学生としての最高のスポーツマン魂を受け継いで来ている。それが伝統となっている。

OBが試合をすると、その流れが随所に出て来て、10年・15年位の間代のOBが混んでも、昔日の強かった時代のチームがすぐに再現出来る。しかも基礎技術が高い。私はこんな時名門湘南のサッカー仲間は実に楽しいと思ふ。但し「名門」が「かつての名門」であっては伝統が泣く。この辺で強くなって優勝してこそ「名門」である。何んとかして現役諸君に強くなって勝って欲しいといつも願っている。

# 湘南高校サッカー部OB、TVKテレビに出演

関 佳 史 (48回)

奥寺康彦さんのデビュー戦となった「ヨコハマカップ」を終えた9月の初め、担当のプロデューサーから、「次は、湘南高校サッカー部だ」と呼びとめられた。以前に企画案らしきものを作ったことを思い出し、今年はサッカー関係の仕事が続くと喜んだ。

TVKテレビは、85年5月から「かながわ朋遊録」という番組を月一回(毎月第一金曜日、午後9時〜9時50分)放送している。神奈川県にゆかりの政財界の方々4〜5人が出演し、様々なテーマで座談をするという、地域志向の番組である。これまでも、長洲知事、細郷市長、吉瀬開発銀行総裁など錚々たる出演者の顔ぶれだ。固い内容にも拘わらず、スポンサーである日産自動車の理解もあり、2年間放送することができた。

この番組のみそは、テーマ選びと、出演者の人選にある。例えば県知事の場合は、「30年目の長洲ゼミ」というテーマで……横浜国大で県知事が最初に教えた方々を集めた。学校や同窓をテーマにしたものあり、趣味の話あり、また仕事の話ありで、テーマとそれにあわせた人選で番組の方向は決定する。この番組に、湘南高校サッカー部をテーマとした企画を提案してあったのが、第18回分としていよいよ実現することになったのだ。この時の提案の理由は、以下の通りである。湘南は、県下有数の進学校でありながらスポーツが栄える。校技はサッカーであり、

- 戦前・戦後を通して輝かしい実績を浴めているさらにOBの方々は各方面で活躍なさっている。
- そして、ご出演いただくOBへの交渉が初まった。会社で、現役の役職を持っていることを条件に、県内の企業から4名、東京の企業から2名にご出演いただき、天野会長と鈴木中先生は、別途VTRで取材することになった。
- 座談会の収録は、9月23日体育祭の準備で活気にあふれた湘南高校をお借りして行った。お忙しいスケジュールをくりあわせて4人の先輩にご出頂いただき、湘南OBらしい明るい座談となった。当日、スケジュールがあわなかった2人の方のVTR取材をあわせて、10月3日夜、無事放送を終えることができた。
- 尚、この場をお借りして、ご出演、ご協力いただいた関係者の皆様に御礼申し上げます。併せて、番組をご覧いただいた方には、ご批判をお願いします。
- 追記 出演者
- 1回 天野 武一氏(OB会長)
  - 9回 富岡 淳氏(鎌倉ハム・富岡商會取締役)
  - 11回 白根 雄偉氏(川崎地下街取締役社長)
  - 20回 山口 雄司氏(洗心亭・明大サッカー部部長)
  - 22回 松岡 巖氏(日立製作所営業本部長)
  - 22回 香川 嵩氏(東京海上常務取締役)
  - 26回 近藤平八郎氏(近藤乳業社長)
- 鈴木 中氏(湘南サッカー部部長)

# 湘南ペガサスの一年

井上 孝 (36回)

早いもので、結成満八年を過ぎた湘南ペガサス・サッカークラブも、クラブの存在がメンバーの生活の中に組み込まれるようになり人的な面でも、活動面でも着実な進展をしています。

人的には、柳川明信代表(27回)以下、会員57名。とはいえ、40才から50才前半の構成員は働き盛りの為、転勤その他で、必ずしも活動に参加できないが、籍だけはという会員もいるので、常時参加可能か否かによつてA、B会員というように分けています。現在、A 48名、B 9名です。クラブでは、監督を選出し、毎試合の指揮権を委ねることにしています。昨年度の山本修(27回)の後に、今年度は中原弘己(30回)がその任に当たっています。

活動は、今年もやはり、県サッカー協会郡市委員会主催の、県下四十雀サッカー大会が主軸となりました。昨年より参加チームが増えたため、一部八チーム、二部一〇チームに分かれ、リーグ戦となり、ペガサスは、昨年準優勝の実績から、一部で優勝候補の一角を占めていました。ところが、今シーズンはいささか不調で、好試合にも拘らず星を落したり、引き分けたりで、結果は二勝四敗一分で第六位にとどまり、辛くも一部への移行を免れるということになりました。来シーズンは

奮起一番を期しています。当大会以外では、栄光学園創立記念日に招待されたり、恒例のYCACとの試合等でしたが、ともかくこの一年、全26試合(一日二、三試合のときもあつた)の試合日数では18)、延べ参加人数四〇〇名(同じく二七一名)ということでした。

もちろん、アフター・ゲームの楽しみも毎度あり、その締めくくりは、納会でした。サッカーはいくつになっても楽しいものですが、それにしても、試合となるとやはり勝ちたくなるもの。四十雀大会でも、登録メンバーの平均年齢は、一部八チーム中優勝した綾瀬が一番低く、ペガサスは、藤沢に次いでの高さです。我が会員の中にも40才に満たず、満を持している者もいますが、大会規定では40才に達すれば即出場可能です。OBで言いますと、41回生は、来シーズン中に可能者が続々出てくるはず。41回生以上の諸兄のペガサスへの加入をお待ちしております。左記の事務局へ是非ご連絡を。

- 248 鎌倉市稲村ヶ崎二一三ー三三 大内 健 嗣
- 255 中郡大磯町東町一七ー七十四 井上 孝

## 県下高校OB大会の試み

井上 孝 (36回)

これまでのOB会報で幾度か記事の出ていますように、旧制中学OBは、名門中学O

B大会と銘打って、年一度の大会を行なっているようです。新制のOBとして、これに張り合おうと(??)、今回、原則として四〇才以上の条件で、県下の高校OBの大会を催しました。

湘南ペガサスがプロモートし、十二月七日湘南のグラウンドに集まったのは、小田原、栄光学園、鎌倉学園、希望ヶ丘、緑ヶ丘(こ

こにはかなり他校からの応援も入っていました)そして湘南の六チーム。各チーム三試合、計九試合を行ない、結果は、四〇才以下若干名を含む栄光学園が三勝〇敗でトップ、湘南は二勝一敗、等となりました。鈴木、藤塚両先生のご協力をえて、楽しい一日でした。これを機に、更に参加校を増やしたり、年二回ぐらい行なおうという意見も出たりで、今後の発展が期待できます。三〇才あたりのチームも同時に行なえれば、いっそう盛り上がるかも知れません。

## 早く純粋なプロフェッショナルを!

湯浅 健二 (46回)

先日、韓国で行われたアジア競技大会を見

てきた。勿論サッカーを中心に観戦したわけだが、そこでの韓国パワーには本当に驚嘆するしかない。このパワーの源泉は一体何なのだろうか。彼等のやっているサッカーは決して美しいものではない。ただ、見る者にも選手一人

一人の勝負への自覚が目に見えるように伝わってくるのである。そこには、美しいものを見た時とは異質の感動がある。ボールを取りに行く時の必死の形相。カバリングやスベースベ走り込む時の五〇m以上の全力疾走。私はコーチとして感動し、そして嫉妬する。決してスマートではない。ただそれ故、彼等の可能性を感じるのである。

韓国がプロを導入して早六年。その効果かこれだけのゲームとなつて現われている。日本も、韓国に遅れること六年にしてプロ導入に踏切った訳だが、それもまだ見せ掛けだけである。本当の意味でのプロ制度をなるべく早く整備しなければ、日本サッカーはアジアの中でも置いていかれてしまう。実際にそれだけの差が生じているのである。

もう現場で出来ることに限界があることは明白な事実。いくらコーチがグラウンド上で叫んでも、いくらコーチが素晴らしいトレーニングをやらせても、目標のない人間は動かない。「サッカーが好きで好きでたまらない」という動機だけでは、もう限界は目にみえているのである。

アマチュアリズムは、一九世紀、イギリス貴族社会の落とし子。古代ギリシャ、オリンピックでの優れたアスリート達は純粋なプロフェッショナル達であり、彼等は社会的にも物質的にも非常に恵まれていた。だから人々の憧れであり、子供達の目標でもあった訳だ。スポーツの歴史は、本当は専業プロアスリートの歴史なのである。

# ボールゲーム クラブより

青木 猛 (48回)

## 湘南クラブより

神崎 章 (59回)

サッカーを中心に、ボールゲームなら何でもやろう、そして、アフター・ドリンキングを楽しもうと始まった我等が、湘南ボールクラブの昭和六十一年の活動を報告します。

2月2日、対中山キッカーズ 5-1-3の勝ち、4月27日、対久保田鉄工 3-1-2の勝ち、5月18日、対栄光学園OBで 2-1-1の勝ちと、負け知らずで大変うまい酒が飲めました。8月には、藤沢市の市民総体にオープン参加し、2回戦(8月24日)に松下冷機と対戦し、4対1で負けてしまいました。これは、夏場のビール飲みすぎが敗因でしょう。

試合の方は、以上ですが、この一年は、アフター・ドリンキングだけの場合も多い年でした。メンバーである藤塚君(54回卒)、武藤君(53回卒)の結婚披露宴の二次会、森君(54回卒)の香港転勤の送別会などです。こういった夜の部だけの場合は、二回戦、三回戦と進むことが多く、次の日の仕事に支障をきたす者もいたように聞いています。今後でもいい汗を流して、うまい酒が飲めるよう活動していきたいと思っています。

昨年度、2度の不戦敗が響き3部転落が決まった我が湘南クラブは、その不振を打開すべく、大幅なチーム改革に乗り出した。関東大会出場を果たした59回生を中心に、本職のキーパーを起用し、なおかつ交代選手も用意し、しまいにはマネージャー(単なる知人)まで参加するという、昨年の不戦敗がうそのような大変身を遂げたのである。ユニホームもイギリス型を新調し準備は万端であった。

6月、梅雨の晴れ間を縫ってリーグ戦は始まった。場所は在原グラウンド。アステカを思わせる芝生に選手達の心は高ぶった。と同時に、このグラウンドは、58年冬、選手権予選準決勝の三沢球技場での試合を前に練習した、そのグラウンドではないか、当時その努力もむなしく三沢で勝てなかったくやしさが選手達の脳裏をかすめた。しかし相手は鎌高ではない。緊張して足が地に着かなくなる程の大観衆もいるはずがない。我々にはもう怖いものはなかった。

ところで試合の方はというと、案の定、大差の楽勝ばかりであったが、相手は、我々の倍近い年齢層のチームも多く、同時に開催されていたワールドカップに影響されて、派手なプレーにこだわったこともあって内容的には今一つであった。若気の至りか。何はともあれ今年度3部優勝を決め、来季

は2部へ昇格することをお伝えし、又、来季には諸先輩方の試合への御参加、並びに御指導を厚く御願ひ申し上げます。今年度の報告を終わらせて頂きます。藤沢市リーグ3部Dブロック

於在原グラウンド

湘南クラブ	4-1-0	御成クラブ
	12-1-0	関東特殊
	11-1-1	ウィングス
	6-1-0	FCシロキ
	6-1-0	荏原
	5-1-0	日本ギア

1位で2部へ自動昇格

### 故田村 恵君を偲んで

服部 斐夫 (16回)

球友田村恵君(十九回生)は、九月下旬に国立がんセンターに入院、わずかに二〇日程後の十月八日転移がんのため急逝された。

附属小から旧制湘南中学に進んだ彼は、実兄皓君の影響を受けサッカー部に入学、三年生から頭角を現わし、堅実な守りとタフさをもって活躍、全日本三位の源動力ともなった。第一早高から早稲田大学に進学してサッカー部に入部、戦後の不自由な食糧事情の中で、バイトを続けながら精進を続け、当時の大学リーグに優勝するなど、ハーフ、バック、としての技術は他校の驚異的となった。昭和二十五年の第一回アジア大会日本代表

選手として、二宮(慶大)加納(早大)有馬(京大)岡田(早大)など戦後の有名選手と共に戦ったニューデリーの熱闘もサッカー界の語り草となっている。

勤務先日本油脂の転勤で鎌倉を離れていた彼が名古屋支店から本社に移って鎌倉に落ちついた昭和四十四年から今年の夏まで、彼の四十代・五十代は、地元鎌倉の仲間達と、又神奈川四十雀チーム、旧制高校OB、湘南OB、早稲田OBの大会でボールを蹴るかたわら、地元少年チーム「よりともクラブ」のコーチとして、長男、次男の卒業後も引つづいて指導を続けて来た。

十月七日(日)湘南関係では安保、内田、桑田、服部などが世話人に名を連ね、彼と共にボールを蹴った仲間達の団体、第一回アジア大会選手団、旧制高校OBヨーロッパ遠征選手団、早稲田大学サッカー部OB、旧制湘南中学サッカー部OB、鎌倉市サッカー協会などの五団体有志共催のもと「偲ぶ会」が開かれた。

午前中、紅葉に色どられた彼の眠る薬王寺にて法要、墓参の後、席を移して偲ぶ会が催された。アジア大会代表として二宮氏、旧制高校代表として常盤氏、湘南代表天野会長、早稲田OBは鈴木会長など各団体で五〇名近くの出席あり、ゲストとして当日一番若いと言われた日本協会の岡野俊一郎氏も故人を偲ぶ言葉を捧げ、これら出席者に揃いのユニフォームを着せれば、即全日本代表選手団になる程のサッカー界有名人の集いとなった。

ご遺族の前に、多くの方々から想い出が語られたが、私事ながら私にとっては、小・中・大学と後輩で、しかも兄の皓君と同級、更に若くして他界した小生の実弟と同級生、そして二〇年も共にボールを蹴り続けた「恵ちゃん」のこのような会が行なわれたのは、彼が誠実に人との絆を大切に、チームでは常にチームプレイに徹し、身を挺して守り続けるなど、人徳のいたすところと、ただ心から彼の冥福を祈るのみである。

このたびの彼の訃報後によせられた湘南サッカー部OB諸兄の御志、偲ぶ会へのご参加に御礼申し上げ、悲しみの中に筆を落さします。

### 静岡遠征報告

山口晴夫 (45回)

61年度春の現役強化の為の遠征が静岡市へ向け、三月二十六日より三十日まで行なわれた。

例年三月から四月初めにかけて静岡県各地区(静岡市、清水市、藤枝市等)に集結する全国各強豪チームは100チームを越え、そこで行なわれる試合はフrendリーマンナーと言えども、各種大会の前哨戦と言っても過言ではない。

現役チームも25名の選手をこの遠征に送り県外チームに湘南のサッカーを示すべく又、県大会さらに、全国出場を目指してのチーム強化を計った。

OB会としては、鈴木、藤塚両先生の指導を助けるべくまた、現役の活動がより効果を上げるようユニフォーム揃え、指導用VT Rテープ、治療用低周波器等を送った。

荒天の中日を含め静岡では、寒いコンディションの中二試合ずつ八試合行なわれた試合結果は以下にある現役の報告の通りです。遠征を通して学んだ数々のことを今後のチームに生かしてもらいたいと願っております。

### 現役報告

'85/'86 キャプテン 田中 敦

湘南サッカー部始まって以来の弱小といっても過言でないくらい、当初は勝負に弱くて勝つことができませんでした。しかし誰もそれにくさることなく、藤塚先生の厳しいトレーニングを着々とこなし、全員が地道に努力を重ね僕達は確実に実力をあげました。大きなタイトルをとることはできませんでした、これが俺達のサッカーだ」と胸を張って言えるチームをつくることができました。これも、長い間こんな僕達を見捨てることなくご指導して下さった鈴木・藤塚両先生、また多大な援助をして下さった諸先輩方のおかげと感謝しています。これからは、先輩方のあとを追って立派な人間となり、そして後輩のためにも尽くしていきたいと思えます。本当に有

### 試合結果

61年2月 市民大会

- 湘南 1回戦 不戦勝 湘南学園
- 2回戦 1対0 清水水
- 準決勝 4対1 長後
- 決勝 0対0 藤沢北
- PK 2対0 優勝

3月 静岡遠征(2勝2負4分)

- △ 0対0 水戸商業
- × 0対2 上野工業
- × 0対3 静岡南
- △ 0対0 松本県ヶ丘
- 1対0 薬園台
- △ 0対0 郡山北工業
- 3対1 愛知朝鮮
- △ 1対3 静岡東

- 4月 筑波大附属定期戦 1対0
- 5月 第30回浦高戦 0対1
- 5月~6月 総体県予戦
- 5対0 柿生西
- 1対0 山北
- 3対1 法政二
- 2対1 厚木南
- 0対1 七里ヶ浜

7月 第11回強修大会

- △ 0対0 相模原
- × 0対1 学習院
- × 1対2 日大藤沢
- 2対1 金沢桜丘
- × 0対3 浜松北
- 2対1 四日市工
- × 0対2 静岡
- △ 1対1 愛知朝鮮
- 1対0 富士
- △ 1対1 佐野日大
- 1対0 島田工業

8月 選手権予選

- 1対0 平塚江南
- 3対1 富岡
- 6対0 五領ヶ台
- 0対2 日大藤沢

10月~11月 新人戦地区大会

- 予選リーグ
- 8対0 深沢
- 3対0 長後
- 決勝トーナメント
- 1回戦 1対0 北陵(延長)
- 2回戦 4対0 七里ヶ浜
- 準決勝 2対0 日大藤沢
- 決勝 1対1 相工大附 優勝

BEST 16

★蹴球祭・総会のお知らせ★

多数の御参加を!

1月15日(祝) 於 湘南高校

10:30 ~ 17:00

第1部 10:30 ~ 11:30

総会(大教室)

第2部 12:00 ~ 17:00

試合(グラウンド)

- 当日午前中は、新人戦の県大会トーナメントが行なわれております。湘南高校は第1試合9:00からの予定です。
- 今年は総会を最初に行ないます。会長・事務局長挨拶の他、話し合う予定です。
- グラウンドの試合では、旧制中学OB・50代40代の年代別紅白戦など色々楽しみたいと考えております。お誘い合せの上多数ご参加下さい。

＜ お願い ＞

■62年度会費納入の件

61年度は皆様のご協力ありがとうございました。本年もよろしく願いいたします。

- ・ 社会人 5,000円
- ・ 学生 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、ご欠席の方は、お手数ですが同封の振替用紙にてお振り込み下さるようお願い申し上げます。尚、下記銀行口座も従来通りでございますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金  
口座番号 019166  
湘南高校サッカー部OB会  
安保隆文 TEL 0467-22-1794

■事務局移動のお知らせ

61年度よりOB会事務局を下記へ移動いたしました。住所変更等がございましたらご連絡下さい。

☎241 藤沢市鵠沼神明5の6  
県立湘南高等学校内  
サッカー部OB会 藤塚久雄  
TEL 0466-26-4151

61年度会計報告

(60.1.15. ~ 61.1.14)

< 収入 >

60年度繰り越し	37,000円
61年度会費(175名分 寄付を含む)	923,000円
利息	1,032円
計	961,032円

< 支出 >

蹴球祭関係(1月)	84,950円
ユニフォーム(1月)	150,000円
イメージションビデオ(2月)	23,364円
現役寄付(3月)	400,000円
香典・花束(9月)	15,500円
会報印刷・通信費(12月)	85,910円
雑費(文具等)	3,400円
計	973,400円
収支合計	-12,368円

事務局便り

●新体制をもって再出発いたしましたOB会も、天野会長はじめ数多くの方々から原稿をいただき会報5号を送付することが出来ました。皆様にお礼申し上げます。

61年度はおかげをもちましてOB会収入も百万円にせまり、現役への寄付に加え総会の承のもとユニフォーム及び戦術VTRを贈ることができました。今後ともOB会発展の為に、各氏ごとの活動をより発展させるとともに、現役への御支援を宜しくお願いいたします。

尚、61年度総会で決定いたしました新役員をここに紹介いたします。

- 会 長 天野 武一氏 (1回)
- 副 会 長 安保 隆文氏 (15回)
- 事務局長 相羽 克治氏 (41回)
- 相羽 克夫氏 (27回)

●OB会員住所録を同封いたしました。これは現役役員が先輩方への感謝を込めて作成したものです。誤字・訂正などありましたら御一報下さい。又、空欄になっている方の消息なども知らせていただければ幸いです。

●電話での問合せ

藤塚	相羽	安保
0466(34)8139	045(893)4824	0467(22)1794